



慢 自 か 自 慢 新 聞 子 ども

2014年 (平成26年)

9月6日 (土) 発行

笠岡地区まちづくり協議会

文化部会 ・ 子ども新聞部

かわいいカブニ君

七月八日、博物館でカブトガニの幼生を二十匹もらった。八ミリほどの平べったいかわいい虫だ。カブトガニのくらしや食べ物、くせなど。どのように大きくなるのか。飼いながら観察していくことにした。



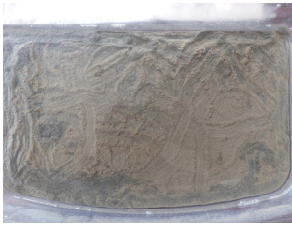
みんななかま

餌をあたえようと、すぐにあつまってきて、仲よく食べんでいた。

いつも暗いところの中

夏休みからは、まちづくり事務所までカブトガニを育てた。幼生は水そのものの底のはしに住むくせがある。餌やりの時は、どろの中から白色のトレイに取り出す。見つけるのは大変だが、足あとをたどって、すみの方を探すのがコツだ。どろへもぐるのは、自然の中で身を守るためだ。

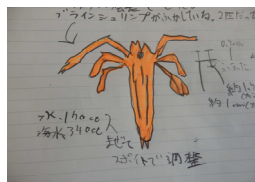
足あと



(四年 岡本拓真)

食べ物エビの幼生

卵は、目に見えないぐらい小さく、丸くて、うす茶色をしている。さわっても何も感じないぐらいで、においはいない。カブトガニ博物館で分けてもらったものを冷蔵庫で保存している。用意した物は、ふ化器のセットとそれをに入れる水そうや水温を二十八度に保つヒーターなどだ。



ブラインシュリンプ

始めにふ化器に入れる水を作る。海水三百五十ミリリットルと井戸水百五十ミリリットルを混ぜて、その中に卵を小さじにすりきり一杯入れて、



飼育の場所

エアポンプで空気を送ると二十四時間でふ化してエビになる。スイッチを切ると、底へ、うじやうじが集まって赤く見える。スポイドでエビを吸って、トレイに移してからカブトガニを入れる。この時には、ひっくり返っても起きれるぐらいの深さがよい。だいたい一時間以上かかって食べる。自然の中でも目には見えないような、小さいヨコエビを食べているそうだ。

(四年 岡本拓真・五年 田中宏樹)

すくすく育てカブニ君 (その1)

命がけのだっ皮

現在、オスは十五回だっ皮して、十三年目に大人になり、メスは十六回だっ皮をして十四年目に大人になるらしいとカブトガニ博物館で教えてもらった。だっ皮は、体の前側がわれて、新しい体がゆっくり出てくる。しつかりと足を



だっ皮に失敗

ふんばって、体の曲げ伸ばしを何回もくり返し、長い時間をかけてがんばり続けるのだそうだ。一五〇〇枚もあるえらや消化管の一部も新しくするので、だっ皮中に死んでしまうこともある。

新しい体は、だっ皮後にシワが伸びて前の一・二倍の大きさになる。初め八ミリだったのが、今は二回目のだっ皮で十二ミリにまで育った。

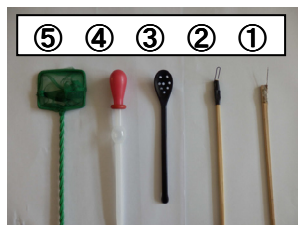
(五年 森兼 惇)

三つの道具

三つの道具を発明した。カブトガニを探すための発明道具①、クリップをのぼしてわりばしにセロテープでまきつけた道具②。カブトガニの大きさにあわせてどろを探っていく、カブトガニに当たったら、クリップをわりばしにそのまま付けた発明道具③ですくう。

次に、発明道具③の穴あき薬用さじにのせてどろを洗う。さがす・すくう・あらうための道具である。④の赤いスポイドで小さい餌を吸い上げる。

⑤の網は足や尾がひっかかるので気を付けて使う。



3つの道具

カブニ君からおそわった

○生き物をかわいがると、育てるうちに、かわいさが増した。生き物をかわいがろう。

○海をよびよさないと海に遊びに行ったら、ペットボトルやナイロン袋をかならず持って帰ろう。

○なかよくするカブトガニのように友達となかよくしよう。(四年 岡本拓真)